

水の関わり方の歴史

私達人間は、昔から水と深く関わってきました。たとえば、水を飲んだり、お風呂に入ったり、食器などを洗ったりと、様々なことで水を使用しています。水は、私たちの生活の中でなくてはならない存在なのです。それは、今も昔もこの先の未来もずっと変わらないことだと思いません。では、水はどのように私達人間と関わってきたのでしょうか。今の関わり方と、昔の関わり方は、少し違うと思います。そんな、「水との関わり方」を、調べていきたいと思います。

まず、私が調べたのは、昔の人と水の関わり方です。昔の人は、生活の中でたくさん水を使用していました。たとえば、農業用水です。農業では、様々なことに水を使います。水稲や畑作物の生育に必要な用水のかんがいや、野菜や農器具などを洗う、洗い場として

檜原市立光陽中学校 二年

森村 一葉

利用していた生活用水などです。他にも、川などの水は衣服の洗濯や、飲料水などで利用されてきました。また、水道の始まりは、紀元前三千年から紀元前千五百年インダス文明で作られた、モヘンジョダロのレンガ造りの水道と言われています。日本では、千五百年に江戸の神田に作られたのがはじめての水道だそうです。このように、昔の人と水の関わり方の歴史はとても深いのです。

次に調べたのは、今の人と水の関わり方です。現代の人も水をいろいろなことに使っています。たとえば家庭での水の使われ方には、お風呂やトイレ、すいことや洗濯や飲料水などがあります。そして日本人は一日に一人当たり二百から三百リットルの生活用水を利用しています。これは、世界平均の約二倍だそうです。この結果から、日本は水をたくさん使

う国だとわかります。しかし、一人ひとりが節水を心がければ、一日二百リットル以下の水量で生活することが可能だそうです。水を使いすぎることは、環境にも悪く、水問題が深刻になっていくだけです。私達の生活に欠かせない水を守るために、一人ひとりが節水に取りくんでいく必要があります。

最後に私が調べたのは、災害時の人と水の関わり方です。普段私達は水道水に依存して暮らしています。ですが、災害などで水がなくなってしまうことがあります。そうなる場合、私達の生活はとても不自由な生活になってしまいます。なので、あらかじめ水を備えておくことが大切です。大人一人につき一日に、二から三リットルの飲料水が必要だそうです。水があるか、ないかだけでも、私達の生活は変わるのです。災害時のためにも、水を十分に備えておくことが大事です。

このようにいろいろ調べていった結果、水は古くから私達の生活を支えてくれ、現在になっても私達の生活に欠かせない存在だということがわかりました。私達は水なしでは、生活をしていけないのです、ですが、今の私

達の生活は、水を十分に使いすぎていると思います。水は永遠にあるわけではありません。水には限りがあるのです。そして、水と私達人間は、この先もずっと関わって、共に生活をしていかないといけないのです。そのためには、水を使いすぎている今の生活はだめだと思えます。もっと水の使い方を考えて、生活をしていかなければいけません。もし、私達が生活の中で水の使い方をもっと考えるようになれば、きっと未来での水と人間の関わり方や生活はより良いものとなるでしょう。そんな未来にするために、私達は日頃から、水のことをしっかりと考えて、生活をしていくことが、大事であり必要だと思えます。